

第1回岩倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会 議事録

日時：平成28年10月19日（木）午後2時00分～3時30分

場所：岩倉市役所7階第1委員会室

出席者

委員：千頭委員、井上委員、村田委員、水越委員、加藤委員、渡邊委員、廣中委員、
宮川委員、田中委員

事務局：山田総務部長、秘書企画課 佐野課長、小出統括主査、渡邊主任

欠席者：廣田委員、日比野委員

1 開会

2 委員の任命

- ・委嘱状交付
- ・委員紹介

3 市長あいさつ

4 委員長、副委員長の選出

- ・加藤委員から千頭委員を委員長、井上委員を副委員長として推薦され、全会一致で選出

5 議題

(1)岩倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について

○主な新規事業の検討状況について

【資料3～9について事務局より説明】

委員長

資料5、6についてご意見があればお願いします。

委員

アクションプランを見ると市・商工会・協議会のチェック欄があるが何を意味しているのか。

事務局

今は空白ですが、3者の役割を分かりやすく表現するために用意している。

委員長

この空白には文章が入るのか。

事務局

記号など端的な表現を想定している。

委員

3者の役割に応じて事業を進めていくのはいいが、内容や経過をこの推進委員会に報告してもらい、評価はこの推進委員会で取りまとめるのがいいのではないか。アクションプランで実施した内容を評価する資料が必要ではないか。

事務局

今日資料で提出したものは総合戦略に位置づけた施策・事業が中心であるためアクションプランとしている。評価については地域産業活性化推進協議会と調整のうえで検討する。

委員長

推進委員会で全てを細かく議論するのは難しいので、それぞれの分野で議論して進行管理していかなければいけない。その上で総合戦略から見て進捗がどうかという議論をする。

委員

推進委員会に報告がもらえればそれでよい。

委員

協働して実施するという事業を役割分担してしまうのはどうかと思う。具体的に事業を進めるにあたり役割分担があるのは分かるが、資料で明確に分けてしまう必要があるのか。せっかく地域産業活性化推進協議会を作ったのにそこで何をやっていこうというのがこの中小企業・小規模事業者活性化行動計画アクションプランに書かれていないのが残念である。

事務局

今回資料で提出しているのは中小企業・小規模事業者活性化行動計画のアクションプランを抜粋したものであり、今言われた部分はもっと前段に書かれている。

委員長

中小企業・小規模事業者活性化行動計画は協議会で作ったのか。

事務局

市で作って協議会に意見をもらっている。

委員長

中小企業・小規模事業者活性化行動計画の内容は地域産業活性化推進協議会で見てもらい、事務局はこの場では何を見ていくのか検討しておくこと。

事務局

今回は1回目の会議ということで、総合戦略に掲げて進めている施策であるから、今回は分かりやすい部分をお示ししている。今後全体を横断的に見てもらう予定である。

委員長

いわくら承継楽校はどうか。

委員

勉強会を催しているが、学んだものを即実践するのは難しい。他の団体でも同じような状況のようである。参考にはなるが、そこからどうしたらいいかで止まってしまう。

委員

戦略というのは資源（ヒト・モノ・金）を投入するのかというものだと思うが、方針は書かれているものの予算をどこに集中させていくのか書かれていない。どこに予算を集中させるのかを明らかに検討していくのが戦略ではないか。

委員長

今言われたのは経営の戦略だと思うが、行政の戦略と経営の戦略とでは意味合いが多少異なるのではないかと思う。

委員

今日の資料では総合戦略全体のスケジュール感が分からない。本来なら全体のスケジュールを見たうえで重点項目などを話し合う場ではないかと思うが、それがないので分かりにくい。

委員

例えば、基本目標が4つあり全体予算のうち基本目標3に50%使う予定などが分かれば議論しやすい。

事務局

行政としては極端な一極集中はしにくい。総合戦略には書かれていないがこれまでやってきた事業もあり、全体予算としてどこにどれだけ使うという数字として示すのは難しい。

委員長

経営の立場からはこの分野は捨てて別の分野に特化ということも可能だが、行政は幅広い市民の要望に応じていかなければいけない以上それはできない。そもそも総合戦略は総合計画の中から絞り込んで作った計画なので、総合戦略だけ見れば市の全体の事業の中の何分の1かでしかない。予算の使われ方を把握するのであれば、市の予算全体のうち総合戦略に載っている事業にどれだけ使っているかを積み上げるのは可能ではないか。

事務局

そういった積み上げであれば可能である。

委員

総合戦略は全国の市町村でやっているのだから、他と同じことをやっても勝てない。岩倉市であれば子育て支援と産業を合わせるのがいいのではないかと思う。

事務局

今日の資料では出せていないが、住宅分野で子育て支援の事業を来年度から予定している。

委員

進んでいることがあるのであれば報告してもらった方が掘り下げた議論ができる。

事務局

次の会議ではもう少し掘り下げた資料を提出できるよう検討する。

委員

ホームページのリニューアルについて子育てに特化したページは1ページもらえるのか。NPO法人や幼稚園でやっている子育て支援もそこでふれるのか。

事務局

子育てに関する情報をまとめたページにはなるが、どういう情報をのせるかは子育て担当課の判断になる予定である。

委員

子育て支援としては女性のための仕事支援も必要かと思うが、そういった情報も掲載可能か。

事務局

機能としては可能である。

委員

ホームページもそうだが岩倉らしさが出ると思う。今まで岩倉が積み上げてきたものが戦略には書かれていない。子育てや仕事のことばかりではなく、色々なものを積み上げて今ある岩倉らしさがあるかと思う。総合戦略をどんどん広げていくわけにはいかないだろうが、この戦略では福祉にあまりふれていないので連携も考えないといけないのではないか。

委員長

基本目標3についてご意見はないか。

委員

子育て世代に色々と考えてもらっているが、普段サービスを受けていても中々気づけないものだということが分かった。もう少し上の世代、保育園を卒業した世代で岩倉市で暮らしていくと決めている世代に合わせた政策もあるといいと思う。

委員長

小中学生の親世代向けの支援があってもいいかもしれない。

事務局

認定保育園の試みなど今まで積み上げてきたものがあり、新しい取り組みもスタートしており岩倉の保育は充実してきていると考えている。学校教育に関しては、保育に比べると訴求力は弱いかもしれない。丹葉地区協議会で岩倉市の学校教育は手厚くやっているという評判がいい。外から見ないと気づかないこともあるがそれぞれの学校の特徴を活かしてしっかりやっているの、しっかりと認識して他との違いを訴えていかないといけない。

○主な新規事業の検討状況について

【資料10、参考資料について事務局より説明】

委員

過去のデータとの比較もいいが、新しい目標に沿った指標じゃないと検証の効果が薄いのではないか。桜まつりの観光客数を見て税金を投入した効果か検証するのは難しい。指標には検証効果の高いものを意識してもらいたい。

事務局

指標の定め方がベストではないのは認識している。今後継続して検討していく。

委員

桜まつりで例にあげると、いくら考えていいイベントにしても天候で左右されるので結果だけ見ても効果が薄い。結果を踏まえて結果に至る理由を考え、対策を考えることに意味がある。

事務局

来場者アンケート等できることを担当課と検討していく。

委員長

次回委員会で今年度のまとめの資料が出てくるかと思うが、目標指標に担当課の自己評価と翌年度の対策をつけてもらえるといいかと思う。また、総合戦略は目標指標を変えていいものなので、場合によっては早い段階で変更してもいいかと思う。

事務局

次回委員会までに検討する。

委員長

転入・転出者向けのアンケートだが、転入出の理由を書かせているが、何が主な目的なのか分かりにくい。理由に順番をつけさせてはどうか。

委員

転入のアンケート結果は岩倉市の魅力だと思うので、新しいホームページはアンケート結果を利用してPRしたらいいのではないか。

事務局

最近では不動産会社でも岩倉市ってこんなまちという情報を提供している。そういうことも意識しながら効果的なPRを考えていく。

6 その他

- ・次回は年度末